

下越水害

昭和 41 年 (1966 年) 7 月 17 日

昭和 41 年 7 月 16 日から下越地方に降り出した雨は、18 日の朝まで降り続け、加治川、胎内川、荒川の各箇所で大洪水となり、家屋や農地の浸水、橋の流失や道路の不通箇所が続出しました。列車の運行も大きく乱れ、電話の不通、停電などの被害も一部で発生しました。特に被害の集中したのは加治川の左岸側で、加治川の破堤と福島潟の溢水によって北蒲原地方の新潟寄り、とりわけ農業関係の被害が甚大でした。新発田川沿いに洪水が流下して福島潟の溢水と一緒に、この付近の低

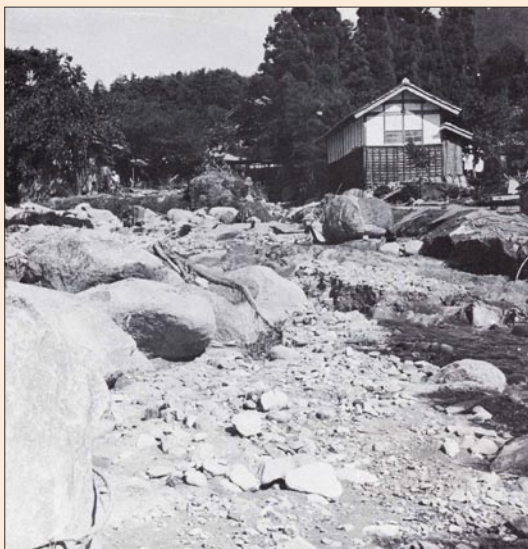
湿地で長時間にわたり湛水しました。新井郷川排水機場の懸命の稼働にもかかわらず水位は低下しませんでした。水没した水稻の立ち腐れも始まったため、阿賀野川の堤防を開削して排水し、8 月 4 日、19 日ぶりに排水を完了しました。右岸側の破堤による洪水は落堀川に向かって流れ込み、海へ流下しきれずに紫雲寺潟跡に湛水しました。復旧が完了するまでの間、破堤箇所から落堀川まで河状をなして流れていました。



下越水害の湛水区域図



昭和 41 年 (1966 年) 新鼻甲集落を襲う濁流 (旧豊栄市)
提供：新潟市豊栄博物館



昭和 42 年 (1967 年)
住宅 3 戸が押し流され、巨石がずらりと居すわる。
(旧黒川村蔵王)

提供：胎内市

羽越水害

昭和 42 年 (1967 年) 8 月 28 日

昭和 42 年 8 月 28 日の夕方から強く降っていた雨が、29 日の夜半から県北の河川流域に豪雨となって襲いました。これは、観測所始まって以来の記録となり、羽越水害の被害は、山形、福島方面にも及びました。新潟県では下越地方の中小河川の多くが破堤して氾濫し、多くの道路や橋、農地が流失しました。また、大規模な山崩れがいたる所で発生し、土石流となって土砂や巨岩、大木を根こそぎ押し出し、沢沿いの集落の家屋、農地を一瞬のうちに埋めてしまいました。夜間の悪条件とも重なって、死者、行方不明者 134 名という大災害となりました。